

「女性いきいき大賞」は今回で8回目になります。応募された団体は、34団体でした。1次選考では各分野を念頭におきながら14団体に絞り、2次選考では優秀賞を4団体選びましたが、今年は子育て分野の選考が難航しました。活動の規模、独自性、地域活性化力、今後の広がりの可能性、継続年数、メンバー数等を確認し、分野の移行の可能性も探りながら優秀賞を決定しました。優秀賞から最優秀賞を決定したのは例年通りです。奨励賞は長く地道に活動を続けてこられた団体に対して、今後も頑張ってもらいたいとエールを送る気持ちを込めて、3つの団体に差し上げることにしました。



今年の特色は、ユニークな活動が目立ったこと、日常のさまざまな必要性を活動につなげ、回りの方々を巻き込みながらやっておられることです。今回選にもれた団体も、次に向けて“いきいき”と活動を続け、新たなことにも挑戦しながら、また応募して頂きたいと思います。また、「学生の部」は、2団体の応募がありました。いずれも甲乙つけがたい活動をしていただいたのですが、「山口短期大学ボランティアサークルやまびこ会」（山口短期大学）に決まりました。短大という2年間の学びの中で、後輩たちに活動が確実に引き継がれていっていることが授賞の理由です。

なお、最優秀賞・優秀賞団体の授賞理由は以下のとおりです。

### ○すろーふーどらいふ山口ネット・<sup>のどか</sup>和（最優秀賞・山口県知事賞）：くらしづくり分野

食の安全・安心が社会の課題としてクローズアップされている中、基本的なテーマとしてスローフード、スローライフを掲げ、仁保という地域の特性を活かした活動を行っていることに加え、「スロースマイルプロジェクト」と銘打って、食や農業、里山保全、環境問題、子育て支援など、この地域の他の団体と連携しながら活動を行っていることが評価されました。今後、生協と連携をとるなど、さらなる活動の広がりを期待しています。最優秀賞は子育てや福祉分野が多い中、くらしづくり分野から初めて出た最優秀賞であることも付け加えておきたいと思います。

### ○スウィートポップコーン（優秀賞・朝日新聞社賞）：福祉分野

福祉と言うと、とかく高齢者が対象になりがちですが、この団体は子どもたちが対象で、なおかつ障がいのある子どもたちの体力づくりのために、子どもたちをいきいきとさせようとお母さんたちが頑張っておられる様子がよくわかったことが受賞の理由です。また、活動が内側に閉じこもるのではなく、地域にどんどん出て行って、子どもたちの現状を理解してもらおうというその積極性も評価されました。

### ○すこやか育ち隊（優秀賞・yab山口朝日放送賞）：地域づくり分野

小児科医が不足していると言われていた中、「いつでも安心して小児医療を受けられるように」という思いを掲げつつ、しかし、安易に医師に頼らず、自分たちでできることは自分たちでと活動をしておられることが評価されました。“Dr.カフェ”では医師を幅広く巻き込んで、学びの場を提供しており、また、意見交換を行い、その情報を地域に発信しているのは他の団体にはないこの団体の特徴です。

### ○NICUママネット のびっこ（優秀賞・山口新聞社賞）：子育て分野

一般的にはあまり知られていない低出生体重児に対する活動で、対象者は限定されますが、今までにない活動ということと、賞を差し上げることによって、このような活動の後押しができるということもその理由です。NICU経験者には、後の子育てにも特別な支援や配慮が必要です。それは経験者同士の支援だけでなく、社会に対しても情報を発信していく必要性を感じ、今後の広がりを期待しています。

# 最優秀賞（山口県知事賞）

## すろーふーどらいふ山口ネット・和<sup>のどか</sup>

代表者 白木 美和 （くらしづくり分野／山口市）

### 活動の動機・目的

主婦3人が発起人として、食の大切さを学びあう「スローフード」な交流を広めようと発足。

目的は

- ①日本のスローフード（自然素材や旬、地産地消）を大切にしたい手作り生活を目指す。
- ②子どもの心を育む家庭料理を考える。「豊かで元気な心は家庭の団欒食で！」
- ③「おばあちゃんの知恵」の活用で健やか衣食住・エコ生活を目指す。

### 活動の内容

- 1) 自然の恵みいっぱいのスローフードや昔ながらの知恵に学ぶスローライフを日本の風土にあったライフスタイルで普及していこうと、学習会や体験交流を行っている。具体的には、
  - ・春、秋の味噌作り体験。
  - ・里山楽童くらぶ（親子参加 不定期）開催。土のない街に暮らす子どもたちや大人の皆さんと県内の里山へ行き、生活体験交流をする。
  - ・『田んぼアート』の取り組み。皆で植え、刈り取り、はぜかけ、脱穀して赤米ごはんを味わう。等。
- 2) おばあちゃんの知恵袋の手作り生活で、地球環境に優しいシンプルなエコライフについても学習中。（エコレシピ冊子の制作も）
- 3) 『スロースマイルプロジェクト』をテーマに食や農、里山保全、環境、子育てなど他の活動団体とのネットワーク交流を行っている。
- 4) H25年度より、仁保の地域情報マップ通信『やっほー！仁保♪スマイル通信』の編集・発行を行う。仁保の魅力をマップで紹介。地区内外の人がもっと仁保を歩くきっかけになることを願い、約2500部作製し、自治会を通して地元の約1000戸に配布。

創刊号は地区の揚山エリアに焦点を当て、作家嘉村礒多の生家や、名水「平家の泉」など4箇所を住民の見どころ案内付きで紹介。隔月での発行をめざす。
- 5) 会員機関紙「すろーふーどらいふ和」を発行。すろーふーど交流の家・母屋だより「ままや・すろーにゅーす」発行。内容は、学習した内容のお知らせや参加した講演会の報告、『スロースマイルプロジェクト』ネットワーク団体からの報告等。

### これからめざしたいこと

仁保から情報発信をしていくことで、これまでテーマとしてきた“地域自給”についてのメッセージを届けていきたい。“地域自給”とは、多くの人と共に自活すること、あらゆることをシェアすること。そして、昔の人の思いを受け継いでいくことなど。なによりも次の時代を迎える子どもたちに伝えておきたいこと、残しておきたいことも MAP で伝えてい



農家さんを囲み  
玄米糍の手作り味噌  
料理を



「田んぼアート」  
赤米で てんとう虫を

く。

# 優秀賞（朝日新聞社賞）

## スウィートポップコーン

代表者 国本 拓也 （福祉分野／山口市）

### 活動の動機・目的

心身の発達が気になる子どもたちや障がい児等は、一般のダンス教室には馴染めず、ダンススポーツにふれあう機会に乏しいのが現状。障がい児の母親の交流団体「のびのびフレンズ」のダンス部が前身。音楽を聴けば自然に身体が動く知的障がい児者達に身体を動かす楽しみや音楽を身体で表現する喜び、仲間と一緒に活動する一体感を体験させ、より豊かな心を育てることを目的としている。

### 活動の内容

ダウン症の人が大半で、筋力が弱く、団体競技などのスポーツは苦手。一方でリズムのある動きが好きなことから「ダンスで子ども達が楽しく身体を動かし筋力アップになれば」との思い。ダンスパフォーマンスを直接観て頂くことで、障がい児者のありのままの姿を社会に発信し、障がい児者に対する偏見や差別を無くし、理解と協力が得られ、交流が深まる地域や社会になるように啓発活動を行う。

○レッスンはスウィートコーン（3歳～小学生）月2回1時間、ポップコーン（中学生～成人）毎週土曜日1時間30分。ダンスはヒップポップ系で、流行曲から洋楽まで幅広く踊っている。専門の講師を福岡から招く。子ども達がレッスン中に、月に1度はママ交流会をして色々な情報を交換している。その時間ママはほっとできて楽しくおしゃべりしている。

○北九州市小倉にある知的障がい者モダンバレエチーム「ハッピーエンジェル」と相互に交流。

○第1回 知的障がい児者ダンスフェスティバル「ホップ♪ステップ♪♪ジャンプ♪♪♪」開催。

「スウィートポップコーン」主催。出演は他に、モダンバレエチーム「ハッピーエンジェル」、「就労継続支援みのり苑」。4月から本格的に準備を始め、衣装は母親の手作り。ボランティアとして山口大学、県立大学の学生3名が、来場者のサポートや控室でのサポートにあたる。

○地域のイベントやお祭りに出演

- ・オゴオリザクラ祭り
- ・赤い羽根共同募金会イベント
- ・山口県障がい者芸術文化祭
- ・小郡福祉まつり
- ・はぁ～と of ふれんず障がい者の祭典等

※子ども達は、舞台上で活動できる、表現できる喜びがあり、練習ではみせない素晴らしい笑顔で踊っていた。スポットをあびた喜びはこのような舞台ならではのこと。母親達は、子どもたちがやりたいという願いを叶え、輝いた姿に成長を見ることができ、将来を不安に思う中、達成感を感じられた。

### これからめざしたいこと

「ダンスフェスティバル『ホップ♪ステップ♪♪ジャンプ♪♪♪』」では、家族や施設の人もたくさん来てくださって、会場はいっぱいになったが、一般の人に向けてもっと発信することが必要。今回の成功をふまえ、2、3年後にも是非開催したい。まだ障がい児に対する偏見は強く、これからもイベント等に参加し、ダンスを通して子どもたちが地域に溶け込めるようにしていきたい。



山口県障害者芸術文化祭出演



『ホップ♪ステップ♪♪ジャンプ♪♪♪』にて



# 優秀賞（y a b 山口朝日放送賞）

## すこやか育ち隊

代表者 井出崎 小百合（地域づくり分野／山口市）

### 活動の動機・目的

「山口でいつでも安心して小児医療を受けられる環境を守る」ということを目的に活動。

2007年頃から夜間救急時や妊婦のたらいまわしなどで医療崩壊について世間の注目が集まるようになり、当初、医療崩壊は医療従事者と行政のみで語られ、コンビニ受診や救急車をタクシー代わりに使う等、患者側のモラルの問題が大きいと報道されていた。医療崩壊、医師不足は山口県も例外ではなく、かかりつけ医、二次救急医療病院、三次救急医療病院と役割分担がされ、地域医療を守る仕組みが作られた。しかし、情報が届かず従来のように、「24時間いつでも、診てくれるだろう」という患者側の姿勢は変わらず、今でもその傾向にある。私たちは、まずは「患者側も課題解決のために同じステージで考えたい」という思いから発足。

### 活動の内容

地域医療の状況がどうなっているのか、本当に患者側のモラルの問題で医療崩壊が起こっているのかを知るために、ワークショップを重ねたり、山口市以外の医療の現状と仕組みを調べ、比較。その中から気付いたこと、自分たちができること、やるべきこととして、ホームケア講座や仕組みや現状を伝えるための講座、ブログやリーフレットによる啓発活動を実施。

#### ①啓発事業

○定例会（座談会）開催。テーマ等の話し合いや、講座の準備等の打ち合わせ。

○ブログ、リーフレットで小児の救急医療の仕組みや休日当番医などお知らせ。全国の市民活動グループと繋がり、各地域の現状と課題を寄稿していただく。

#### ②講座事業

○小児救急医療を守る！Dr. カフェを年1回開催。

Dr. カフェは、子どもが病気の時の対処方法を学ぶ会ではなく、医師（小児科、歯科、皮膚科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、助産院の助産師等）と市民が対話することで、お互いへの理解を深め同じ市民として安心して暮らせる山口市になっていくことを願い実施。

○ホームケア講座の実施。

小児科医に協力していただき、子どもの病気について学ぶ講座の実施。

○その他

保護者にとって興味関心が高い内容の講座を実施。集まった保護者に対し、すこやかのリーフレットを配布し、仕組みを伝えたり子どもの病気についてのワークショップを行っている。

#### ③広報事業

ブログ、広報紙にて活動報告、告知事項等の発信。

#### ④その他事業

山口赤十字病院、小郡第一総合病院の各小児科病棟へ絵本の寄贈。

### これからめざしたいこと

①小児医療に関する問題解決のために、市民として現状改善の努力をする。

②医療従事者・行政・市民、それぞれの声を吸い上げ活かしていく。

③小児医療について課題解決のための活動を実施継続する。

Dr.  
カフェの  
様子



絵本の  
贈呈



# 優秀賞（山口新聞社賞）

## N I C U ママ ネット のびっこ

代表者 佐々木綾子 （子育て分野／山口市）

### 活動の動機・目的

山口県健康福祉センター主催の未熟児学級「元気っ子」教室の参加者有志で、N I C U（新生児特定集中治療室）体験談を作成。作成する過程において、もっと当事者同士が子どもの年齢や行政区を越えて自由に交流できる場があれば」と声が挙がり、自主サークルを立ち上げた。翌年から宇部会場「うべっこ」も開催。目的はN I C Uを体験し、小さく生まれた赤ちゃんをもつご家族（特に母親）を対象に同じ体験をした者との交流や情報提供をもって、小さく生まれた赤ちゃん特有の不安や悩みを解消すること。

### 活動の内容

#### ①「おしゃべり会～N I C U c a f e～」(山口・宇部会場) 開催。

情報交換、交流の場として、心配ごとのつきない日々の育児に癒しのひとときを得られるよう工夫。親子のなにげない一瞬を写真で撮る「親子キラリ撮影会」、「スクラップブック教室」、「心もほぐそう☆ハンドマッサージ&ケア教室」を実施。また、「平和を願う手形とり」を他のママグループにお願いし、成長の記念とする。保健師の協力を得て、育児相談の時間にコミュニケーションを図ることもでき、公的機関と顔つなぎの場としても機能。運営をN I C U経験者による「ぴあサポーター」・低出生体重児の保育の経験が深い「保育サポーター」が行う。サポーターにはぴあカウンセリングや小さく生まれた赤ちゃん、その家族の事を学ぶ「ぴあサポーター」研修を行う。

#### ②「私たちのN I C U体験」(冊子) 配布。ママたちからのメッセージ「一人じゃないよ!」をN I C Uを持つ医療機関・市町未熟児療育医療窓口へ見本版の設置、おしゃべり会でもこの体験記を配布。

#### ③手芸部を立ち上げ、小さい赤ちゃん用の肌着作りに取り組む。自宅で余った物や活動を知った人が寄付してくれた布を使用。入院中のご家族のため、保育器から出た赤ちゃんにぴったりサイズの肌着を病院に寄贈。

#### ④ブログ「N I C Uママの部屋」管理運営。県内のN I C Uサークルをつなぐ活動の一環。

#### ⑤会報「きせつのおたより」発行。体験者の視点から、欲しかった情報、知りたい情報を、体験者アンケートを中心に作成したもの。体験談も掲載。

### これからめざしたいこと

○「ぴあサポーター」研修などの機会を通して、ピアカウンセリングや小さく生まれた子どもとその家族についてさらに学ぶ時間を設けていく。県内N I C U関係機関と連携を図り、どの病院、どの地域で出生しても必要なサポートや情報提供が受けられるようにする。

○交流の場のない地域で「おでかけ～N I C U c a f e～」を開催（周南市）。

○今後もさまざまな手法を用いながら、多面的に、小さく生まれた赤ちゃんを持つ家族（特に母親）の孤立感・孤独感の解消に努めていきたい。



おしゃべり会



ぴあサポーター研修

# コープやまぐち奨励賞

## 音訳みちしおの会

代表者 田中 博子 (福祉分野／下関市)

### 活動の動機・目的

視覚障がい者からの地域情報等の強い取得要望により、1993年にカセット情報誌制作「みちしおの会」として発足。毎月1日に地域情報誌として、90分テープに録音制作し無料配布。メンバーは自宅で図書の音訳録音をする。過去の活動も含めて点字図書館に、テープで約3500冊とデジタル録音図書（デージー）で1067本を音訳録音の蔵書に納めている。

### 活動の内容

山口県盲人福祉協会 点字図書館所属の音声訳ボランティア団体。

- ①県内の約200名の視覚障がい者に、毎月「みちしお（音訳テープ）」を作成し、情報提供。各自吹き込んだテープを皆で校正し、質の向上をめざす。内容は、新聞や雑誌などから抜き出した福祉関係や教養・文化・消費生活・健康・娯楽など。これまで第246号発行。下関市報・ごみ収集カレンダーも音訳。
- ②新刊を音訳（一冊読みあげるのに約10時間以上）。利用者からリクエストされる本もある。
- ③定例会合の他、視覚障がい者の行事に介助ボランティア参加、市女団連と共催で秋の交流会開催など。近年は、特に視覚障がい者との交流を兼ねて、山口県盲人福祉協会主催の各種行事のガイドボランティアを積極的に実施。そのためにガイドヘルプマニュアルを配布、学習して臨む。街頭赤い羽根募金や「24時間テレビ愛は地球を救う」募金等にも参加している。

社協からの助成金と会費を貯めたものでインターフェースを3台購入し、メンバーの大半が使用できるようになった。しかし利用される方の中にもパソコンを利用できない方もいるため、テープでの録音も行っている。

全会員を対象に、毎月朗読講習会・機器操作勉強会・機関紙発行に努め、新規会員の拡充を図る。特に初心者には、CD-ROM版による朗読録音に取り組んでいる。新人は講座で学べない音訳技術や機器の操作など実践を通して先輩から学ぶ。伝え合い・学びあいで、個々の技術向上と録音図書製作につなぐ。

### これからめざしたいこと

視覚障がい者にとっては欠かせない情報源となっており、毎月楽しみにされている。時に点字によるお便りが届くこともある。障がい者の方が声を覚えていて下さって、名前を呼んでもらえたのが嬉しい。その時リクエストもされる。さらに交流を深めて、要望を汲み上げ、受ける側の気持ちに寄り添った、きめの細かい情報発信をめざしていきたいと考えている。

新規会員拡充を継続していく。



みちしおの会メンバーで



街頭赤い羽根募金参加



# コープやまぐち奨励賞

## すみれの会

代表者 扇 公子 (福祉分野／下関市)

### 活動の動機・目的

代表者が聴覚障がい者ということもあり、周りの人たちとコミュニケーションを図ることの重要性や社会と接点を持つことの大切さを身をもって知っていて、聴覚障がい者、特に、高齢者の方々が集える場所が必要と考え、この会を結成。下関市内に住む高齢の聴覚障がい者が心おきなく語る場を提供することを目的とする。

### 活動の内容

○定例会開催（午前中は学習会や情報提供の時間とし、午後はおしゃべりの場となっている）。

- ・学習会は緊急時の避難・連絡方法、ゴミ出しルール、介護について、おくすり手帳のことなど、一般社会では当たり前のことが理解できていないので、根気強く説明。他にも、保健所に出向き、健康教室を実施したり、市議会の見学も行った。代表者が聴覚障がい者で、メンバーも聴覚障がい者ということもあり、これらの学習会を通じて、恥ずかしがらずに何でも質問できるようになってきた。

- ・日帰り旅行実施。市内観光や買い物など。メンバーが一番楽しみにしている。

※日常の楽しい会話、社会見学、学習会、情報交換などにより、生きることの楽しさを一生涯通じて感じる事ができるように、定期的に会を開催すると共に、一対一の支援が必要な場合は、膝を突き合わせ、個々が抱えている不安を解消できるように努めている。

○下関に伝わる伝統手話の本「下関の手話」を作成。

毎回サロンの中で多くの高齢聴覚障がい者があつまり、にぎやかな手話が飛び交う中、豊かな手話を保存することを思いつき、完成させた。

- ・手話にも方言があり、その保存のために作成。平成18年に取りかかり、平成20年に発行。
- ・すみれの会のメンバーが昔から使われている手話を忘れないうちに、記憶を手繰り寄せながら作成。手話通訳と手話会の有志たちが校正に協力。印刷会社との交渉にも協力してくれた。
- ・300部発行し、内50部は県内の全手話サークルや情報センター、下関市内の図書館、小学校に無料で寄贈した。

### これからめざしたいこと

今後の課題として、皆から期待されている会を継続させることと、充実した情報提供を行う事。さらに耳が聞こえなくてもコミュニケーションが取りにくくても自分ができるコミュニケーション方法（筆談など）で、近隣の地域住民と積極的にコミュニケーションを図るスキルを身につけること。そして、最大の目標は、高齢化した聴覚障がい者が入所できるケアハウスの実現。現在高齢化した聴覚障がい者が老後に安心して入れるケアハウスがなく、近い将来、施設に手話のできる職員の配置要望などに取り組み、仲間と明るく、生き甲斐のある人生を送れるよう頑張っていきたい。



健康教室



市内観光

# コープやまぐち奨励賞

## ミュージカル山陽ありすの家

代表者 峰永 郁代 (地域づくり分野／山陽小野田市)

### 活動の動機・目的

様々な格差（世代間格差・性別格差・健常者と障がい者の格差等）があり、その格差に疑問を抱いておられる方々が沢山おられたが、核となるものが無かった。そこで、格差解消と地域の活性化、三世代交流、文化創造活性化を図るために、地域のさまざまな団体と共に協力することを目的に発足。舞台を創る過程で、お互いに支え合い行動することで、性別・年齢・障がい者・障がい児・うつ病をお持ちの方々と共に笑い・泣き・感動し、心のバリアフリー化を目指し、福祉の輪を広げる。「生きる力・輝く心を掴む」。

### 活動の内容

○年1回の定期公演実施。

「毎年タイムリーな話題をテーマとして、一から（脚本・曲・ダンス）全て手作りで行っている。

2012年 「邪馬台国」 歴史を通して人と人とのつながりを考える。

2013年 「虹のバースデイ」 STOP!虐待 STOP!いじめをテーマに公演。

○学校等公演

・竜王中学校（「翼をください」～学校より依頼されたテーマは“人権”）上演。

・幼稚園・保育園に3会場（親子）。絵本をモチーフとしたものを上演。

○ワークショップの開催（誰でも気軽に参加し体験できる。自己表現を促す）。夏休みに出向く。○各施設の慰問（小野田市立病院へは年3回・介護施設デイサービスへ3か月に1回）

○練習はキッズクラブが隔週土曜日。ストレッチ、発声法など基本から学ぶ。他は週2回。異年齢と異職業の集まりなので、全員の意識統一やモチベーションを保つのに苦労するが、できるだけ会内においてのイベントを開催し、会員相互のコミュニケーションをとり、三世代が気持ちよく、楽しく活動できるようにしている。舞台製作、小道具、衣装制作も行う。

※この会のこだわりは、客席と舞台を区切るのではなく、客席に降りて行ったり、客を舞台上げたりして、巻き込み、ふれあいを大事にしていること。

### これからめざしたいこと

障がいや病気をもっている、高齢でも一緒に楽しく踊り、ステージに立つことができるというのを観られたお客は、前向きになれるし、勇気をもらわれていると思う。いろいろな方が舞台やおまつりで、同じ舞台に立てることが一番と思っている。“人間皆同じ”ということが信条。

皆、忙しい中でも、頑張っているということが一番の成果と思う。客席の人達の笑い声や笑顔に感動。次への元気につながる。自分たち市民の手で、夢と感動と生きる勇気を沢山の方々に伝えたい。そして、ミュージカルを通じて、たくさんの方が多くの人と出会い、同じ楽しい時を過ごし、幸せになってもらえたら・・・の思いで続けていく。



「翼をください」  
公演写真



「山陽小野田市市民祭り」  
参加風景



## コープやまぐち奨励賞・学生の部

### 山口短期大学ボランティアサークルやまびこ会

代表者 高田 加奈子（地域づくり分野／山口短期大学）

#### 活動の動機・目的

山口短期大学を拠点として活動するボランティアサークル。会員は相互に協力し合い地域社会の要請に応じて活動するものとする。やまびこ会という名称は、地域からの声に対して反応する団体という由来をもち、地域社会への貢献を第一としている。

#### 活動の内容

団体としての活動は30年以上の歴史をもち、会員は毎年平均30名となっている。

##### ①社会福祉施設の行事手伝い。

児童養護施設や障がい者支援施設等の依頼を受けて年間8回くらい出向く。行事の時の子どもたちや大人の方の付き添いが主。

##### ②地域の祭りなどのお手伝い。

##### ③防犯活動（チーム名称：防犯ボランティアやまびこ会）。

山口県内の短大生による防犯ボランティア活動団体としては一番最初に立ち上がった。学生生活でお世話になっている大道や防府の安全安心のお手伝いができるよう取り組みを続けている（JR大道駅までのパトロール活動と防犯を呼びかけるチラシ配り、駐輪場での自転車防犯点検等）。

##### ④防府市大平山山頂公園での「家庭の日親子ふれあい観光イベント」の企画運営（チーム名称：ちやすむんき〜）。

目的：「家族ぐるみのおつきあいができる場をめざそう！横のつながりをつくろう！」イメージは「山の上の子育てサロン」

開催日：毎月第3日曜日午前10時半から15時まで実施。本年度は全9回（12月、1月、2月は休止）。

2012年度より、地域の活性化に向けて防府市産業振興部観光振興課と協働で開催。

※親子で楽しんでもらうことを目的に、四季折々の大平山山頂公園を楽しみながら、季節に合わせた内容を企画。事前に大平山山頂公園を視察し、アイデアを持ち寄って企画会議で内容を決めていく。一人ひとりがアイデアをもちより、工夫している。

#### これからめざしたいこと

「ちやすむんき〜」では、参加者に楽しんでもらいたい、喜んでもらいたいと考え企画しており、実行した時には、参加された親子から「楽しい」、「また来るね」という反応を頂き、達成感や充実感を感じる。活動を続けるたびに、次回はより楽しい企画にしたいと思う。リピーターが多いことが大きな成果。

2年間という限られた中での活動なので、準備が大変だし、メンバーの人数不足もあるが、「ちやすむんき〜サポーター」を構成し、当日の運営メンバーを増やしていく。もっと充実できるよう、保育の現場や市内の職場にいるOBやOGが関われるような形を作っていきたい。「ちやすむんき〜」のキャラクターを大切にするため、着ぐるみを作りたい。めざせ！ゆるきゃらグランプリ！これからもやまびこのように、地域からの声に対して反応し、地域社会への貢献をしていきたい。



大平山での  
活動風景



毎月第3日曜に  
作って遊んで  
楽しんでます



アイアム  
「ちやす  
むんき〜」

# コープやまぐち組合員賞

## グッド☆キャッスル

代表者 澤 直子 (子育て分野／山口市)

### 活動の動機・目的

親子で、楽しく文化的活動に係わりを持つために集まり、地域交流センター等と協働行事を催すことにより、地元との繋がりを大切にしている。

### 活動の内容

「認定NPO法人こどもステーション山口」吉敷ブロックとして活動。舞台劇や音楽、人形劇などを親子で鑑賞したり、地域交流センターや地域づくり協議会と協働で小公演や季節の行事を行っている。

#### ○舞台鑑賞

大きく低学年（小学生が主）・高学年（小学高学年以上）コースに分かれ、それぞれ年間5回、公演がある。

中でもH25年では、ミュージカル「ルドルフとイッパイアッテナ」の事前ワークショップにも小学生が参加。女優達から歌とダンスを教わった。公演のカーテンコールで、プロと一緒に舞台に立ち、ダンスと歌を披露することができた。

#### ○地域交流センター、地域づくり協議会との協働行事

7月あっちこっち de アート（小公演）。H25年は人形劇「はらぺこ団」（吉敷地域は2回公演）

7月「そうめん流し&スイカ割り大会」 地域の一般親子も多数参加。

11月「吉敷ふるさとまつり」参加、出店。子ども達も売り物のアイデアを出し合い、準備や売り手を体験。売上金を、会の運営・活動費にしている。

12月「お餅つき&豚汁大会」 地域の一般親子も、多数参加。

#### ○幼児クラブ「モコナ」

地域交流センター定期利用団体に登録。月に1度開催。未就園児を持つお母さんたちが、自由にだれでも参加できる、ふれあい・交流の場を提供。季節の行事や、手作りおやつを一緒に作るなどし、毎回、絵本の読み聞かせも行う。

#### ○『る・り・フリー』に参加

「NPO法人子どもステーション山口」主催、子どもの手作り舞台発表会。子ども達が主体となり、脚本、演出、道具などすべてを考え、創作したものを発表する場に参加。

### これからめざしたいこと

地域交流センターや地域づくり協議会と協働で行事をすることで、地元との繋がりを大切に、深めてい

く。今後も、楽しく文化的活動に係わりを持つよう、親子で活動を進めていく。



「モコナ」で雛寿司作り



地域交流センターとの協働行事

# コープやまぐち組合員賞

## めんどりかあさん

代表者 本村 輝美 (地域づくり分野／下関市)

### 活動の動機・目的

テレビやゲーム等の映像社会の中で、子ども達に絵本の楽しさをもっと知ってもらいたい思いで読み聞かせを始めた。絵本、人形劇、語り、わらべ歌等を通してお互いに楽しい時間を共有して心豊かになる事を目的とする。

### 活動の内容

乳幼児を対象に

- 定例開催 (毎月第4土曜日／長府図書館にて)「おはなしの部屋」。
- クリスマス会開催 (12月第4土曜日／長府図書館／幼児・児童対象)。
- 「めんどりかあさんのおはなしキラキラ」(H25年6月／幼児・児童対象)。  
公民館ふれあい活動。幼児対象におはなし・わらべうた・人形劇など。
- ひかり童夢・ブックスタートふれあいの会開催。(H25年6月)

小学生を対象に

- 豊浦小学校・放課後おはなし会開催。(5月、10月、1月)
- 豊浦祭(豊浦小学校) ゆっくりスペース担当。

大人を対象に

- 「めんどりかあさんの秋のおはなし会」開催(11月)。語り・絵本・わらべ歌等。
- ケアハウス(デイサービス)で人形劇公演(H23年)。

H25年度より

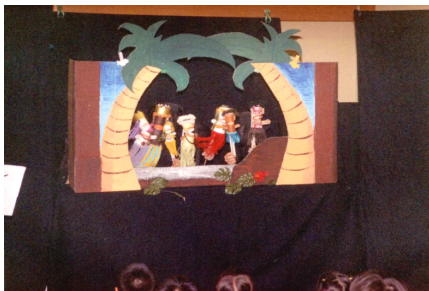
- 赤ちゃん文庫を開設(助成金で80冊購入)。  
赤ちゃんの時から語りかける事の大切さを知り、開設。本棚と絵本を購入し、自由に利用してもらおうと公民館で始めた。「めんどり・赤ちゃん文庫おはなし会」開催(5月、8月)。

他に

- 長府婦人会依頼による節分お話し会(小学生親子対象)開催。
- 8月に、第27回昔話を楽しむ九州・沖縄交流会 in 福岡に参加。

### これからめざしたいこと

乳児期、言葉のもつ面白さを感じ取り、親子でふれあいながら楽しさを共有する時間のお手伝いができるよう、そしていずれ、絵本や本に親しみ、生きる力を見出してくれることを願って、赤ちゃん文庫の充実をはかる。子ども達にもっともっとお話の世界を楽しんでもらえるよう、更に大人対象のお話会も続けて、少しでも癒しの時間を持てるよう努力したい。今後も楽しい時間を共有し、心豊かになることを目指していく。



おはなしキラキラ  
(牛乳パックで作ったバク  
バク人形による「カメハメ  
ハ大王」の音楽劇)



赤ちゃんおはなしの部屋  
(親子で楽しむわらべ歌によ  
る手遊び)